令和5年度　学校評価(関係者評価)

学校教育目標「ふるさとを愛し、心豊かでたくましく生きる子どもの育成」　　雲南市立寺領小学校

評価計画	保護者評価	学校関係者評価	次年度計画
中期経営目標	肯定的評価目標値3.0以上	自己評価に対する学校関係者（学校評議員）の意見のまとめ	今後の取組の重点
特色ある教育課程の編成と充実	3.7	・寺領小学校の大きな特色である「食と農」を中心としたふるさと教育は、地域や事業者と学校のよい連携により、引き続き充実した取り組みが行われている。応援団などの地域の人との関わりが広がる中で、児童たちも地域への愛着を深めている。 ・寺領小の「食と農」の学習は、活動の中で「地域の人・もの・こと」に触れることによって、児童に貴重な体験をさせている。 ・活動が結果だけで終わることなく、活動の意義を考えたり、活動を振り返ったりしながら、児童の「ふるさとのよさ」の気づきにつながるようになればと願う。 ・食と農の活動はそれぞれ工夫して行われ、長年継続されている活動でも新鮮な気持ちで取り組んでいる。 ・これまでなされてきた様々な地域との交流活動や学習等における地域講師の活用などで、学校と地域とのつながりができてきた。今後も、地域の学校として積極的に推進していってほしい。	・今後も計画的に{食と農}を中心とした体験学習を実施していく。 ・今年度中に検討した「次年度の取り組み」を実施し、さらに反省を踏まえながら、実態に合ったふるさと教育を推進していく。 ・地域講師と連携し、栽培指導だけでなく、草刈りなど地域ボランティアの人材を広く募る。
確かな学力の育成	3.2	・学力育成のため様々な工夫がされ、日々着実に取り組まれたことで全体的に評価が上がっていると感じる。 ・タブレット端末の活用が、ドリル学習にも活用されるようになりすばらしい。ドリル・プリントの活用や、書き取り会や計算会による意欲付けにより児童の基礎学力の定着につながってくことを願う。 ・思考力・判断力・表現力を育成するには、様々な場を設定することが必要であるため、意図的・計画的な取り組みが望まれる。 ・読書を大切にする小学校の姿勢はとてもありがたい。読書活動の様々な取り組みにより、成果を上げている。子どもが読書に親しめるように、これからも工夫した取り組みが望まれる。 ・家庭学習の習慣づけのために「学習の手引き」や「家庭への啓発」は有意義だったと思われる。また、一律ではなく児童の個々に応じたきめ細やかな対応も必要である。	・基礎的な内容の定着のため、書き取り会、計算会は今後も実施していく。 ・授業では、児童の言葉での表現を大切にしたり、ふりかえりの時間を確保したりする等、授業を工夫していく。 ・家読の取組は内容を工夫しながら、今後も続け、少しでも家庭で読書をする機会がもてるようにする。 ・家庭学習の手引きの配布、自主学習の取組を続ける。
豊かな心の育成	3.3	・全体的に評価は高いが、児童の「自信や達成感」の部分で評価が下がり気味で、少し気になる。 ・学級集団づくりの様々な取り組みは、効果があったと思われる。今後も、集団になじめない児童を見逃したり、見過ごしたりしないように取り組んでほしい。 ・道徳心を培い、人権意識を高めることは、児童が今後社会生活をしていく上で、基盤となる大切なことである。それらの向上のため、工夫して様々な取り組みをしておられることを感じる。日々の生活の中で、その成果がより一層表れることを望む。 ・寺領っ子発表会での「友達のよいところを伝える」ことは、とてもよいことだった。今後も続けてほしい。 ・学級活動や児童会活動で学級の実態や児童の自主性を踏まえた取り組みにより、活動意欲が高まったことは成果である。今後も引き続き、児童の自主性を大切にし、サポートしてほしい。 ・仲間意識やリーダー性を育てていく上で大切な縦割り班活動は成果が見られているようだ。高学年の関わりは素晴らしい。伝統として受け継がれてきた活動を大事にしていき、さらに工夫を重ねるなどして推進してほしい。	・来年度も意図的に活動の振り返りの場を設定する等、継続して取り組み、友だちの良さを見つける目を育てていく。 ・来年度も日々の授業や日常の中での言動を大切にしつつ、人権集会、多文化共生教室などを継続して実施し、人権感覚を高めていく。 ・学級活動、委員会活動、その他の行事等で、児童の主体性を重んじた活動を行っていく。また、事前指導、事後指導で児童の意欲を高めたり、良かったところを褒めたりしていく。 ・縦割り班活動については高い評価なので、さらに充実したものにしていく。また、教師、保護者に比べ児童たちの目標値がやや低いので、児童たちに縦割り班活動の中で達成感や充実感を味わわせる方法を考えていく。
健やかな体の育成	3.2	・メディアに過度に依存した児童にならないように、「にこにこ習慣」や「元気アップ週間」の取り組みは、大変有効だったと思える。自校のみならず中学校区全体や地域・家庭との連携は、地域みんなで子どもを育てていくことにつながったのではないか。 ・元気アップ週間は、マンネリ化しているのでは。タブレットを使ったゲーム感覚でできるようなものがないか。 ・児童の体力を向上させるために、様々な体育的な行事・取り組みは、児童の体を動かしたいという基本的な欲求を満たし、励みになったのではないか。 ・校庭で遊ぶ児童が少ない。校庭の利用率を上げる工夫がほしい。（大谷選手のグローブの利用等） ・高学年の児童のみなさんの様子を見ることは少ないが、低学年はのびのび教室でも、とても元気よくボール遊びや鬼ごっこ等で走り回っている。活発に動く子どもたちが多く見られる。	・元気アップ週間や保健教育を通して、家庭と連携した取組や個別の指導を続けていく。 ・遊具の整備、屋外で遊ぶ場の設定や雰囲気づくりをする。

保護者・地域から信頼される学校	3.4	・保護者や地域との信頼関係が築かれており、いろいろな場面で連携し、協力が得られている。 ・学校からは、「学校だより」「ホームページ」をはじめとして、保護者及び地域に発信されている。ただ、発信されても受け取り側が読んでいなければ意味をなさない。楽しみに読んでおられる方も多いと思うが、実際どれぐらい読まれているかを、時々何らかの方法で検証していくことも大切なのではないかと思う。 ・保護者や地域と学校が情報交換したり、連携したりする機会は、たくさん設定されている。地域の学校として、開かれた学校づくりを今後も推進していただきたい。 ・地域との連携に関しては、本当に多くの方が様々な場面でかかわってくださり、これまでの寺領小学校の方々が働きかけてくださってきた賜物だと思う。 ・地域の方が協力的にやっておられるように感じるが、もっと適材適所手伝ってくださる方がおられると思う。	・今後も、学校の様子をホームページ、学級だより等で知らせていく。 ・学校だよりについては、今後も白黒印刷でホームページでカラーを見ていただくようにする。メール配信でPDFをおくることも検討していく。 ・保護者アンケートや配布文書など、引き続きICTを活用していく。 ・引き続き、保護者と連絡帳、電話などで連絡を取り合い、情報交換を行う。 ・学習や活動の際には、保護者の方にボランティアの協力を呼び掛けたり、地域の方を講師に招いたりして、保護者・地域と連携しながら進めていく。
生徒指導の充実	3.2	・児童理解の評価が児童、保護者とも上がっており、教職員の皆さんの努力がうかがえる。また、専門職に相談ができる体制もつくられており、児童一人一人を大切にされていると思う。 ・明るく素直で純朴な寺領の児童、落ち着いた学校生活を送っているようであるが、様々なトラブルや決まりが守れないなどの問題もあると思う。子どもたち自身が間違いに気づいたり、話し合いによる解決ができたりする力を持ってほしいと願う。 ・生徒指導は、児童理解に始まり児童理解に終わると言われている。教育相談やアンケートQUなどにより児童理解に努めておられるが、教師の日常の観察は大切である。児童との関係を大切にして、一人一人の児童に寄り添った児童理解を進めてほしい。 ・のびのび教室でも昨年に比べトラブルが少なくなってきたが、先生がいるときといないときで子どもたちの態度に少し差があり少し気になる。 ・スクールカウンセラーの方ともお話をしたかったのですが、時間がとれなく、オンラインでできるとありがたい。 ・自立性やモラルについては、家庭教育の一環であると思っており、保護者の協力が重要である。	・木次町として「あいさつ日本一」を目指す取り組みの4年目となった。毎学期初めに中学生が小学校へ出向き、あいさつ運動したり、あいさつ標語コンクールなどに取り組んだ。この運動は来年度も継続できたら良いと思う。さらに「あいさつ」への意識を高められるように月の生活目標にしたり、機会を見逃さず、啓発活動していく。 ・今後も、全教職員での児童理解、支援を継続していく。
特別支援教育の充実	3.3	・配慮が必要な児童への支援を、担当だけに任せるのではなく校内支援体制を組んで全教職員で支援していく素晴らしい取り組みがなされている。困り感を抱えている児童はほかにもいるかもしれないので、個々の児童の実態を把握し、それに対応下より一層の支援が望まれる。 ・支援の必要な児童に対して全教職員で対応し、指導していただいて、子どもたちがのびのびと生活しているように思える。 ・全校生徒が一緒に活動する時間があることがとても大切だと思う。	・引き続き、保護者、関係諸機関との連携を図りつつ、支援員の配置時間を随時変更しながら、困り感を感じている児童への支援を充実させていく。そのために、全教職員で児童一人一人の状況等について情報交換をして共通理解をし、よりきめ細やかな支援を行っていく。教育相談や校内支援体制等本校での取り組みについて学校だより等でお知らせしていく。
授業力の向上	3.3	・児童の学校生活の大部分を占めている授業を充実させることは、何にもまして重要である。先生方は、教材研究や授業準備に充てる時間がなかなか確保できない中でも、真摯に取り組んでおられる。研究教科はもちろんのこと、他の教科でも児童が興味関心を持って取り組み、自ら課題解決に取り組み授業を展開しておられることは、素晴らしい。 ・時代に合わせて、ICT活用を推進していくことは大切なことで、授業や家庭学習、保護者への連絡等にも活用が見られるようになってきたことは、喜ばしいことである。利用の仕方については、点検し課題があれば対応してほしい。今後のICT活用における指導効果を期待する。 ・ICT活用は使い方等身について楽しく学習できているようである。 ・今後、自分で課題を見つけ、解決していく力が必要とされる社会であるため正しい答えを出すのではなく、いままでにない問いを探したことを評価する学びをお願いしたい。	・今後も児童の興味関心を大切にしながら、授業実践を重ねていく。 ・授業や家庭学習でのタブレット端末の活用をさらに進めていく。特に、家庭での活用の仕方を工夫していく。 ・児童のタイピングスキルが向上しているので、引き続きウェブサービス等を利用し、技能を高めていく。
教育環境の整備	3.1	・不審者の学校侵入などの緊急事態が、どこにでも起こりうる時代になってしまった。寺領小でも対策をとられているが、引き続き備えをしっかりしてほしいとい思う。 ・保護者・地域の協力により校舎周囲の環境が整備されていることは、日登の地域の教育に対する力を感じる。 ・木造のアスレチック遊具が長年使用禁止となっているので、予算の都合もあると思うが、何とか毎年少しずつでも撤去して環境を整備してほしい。また、近年校庭の遊具が更新されたものがあるので、子どもたちのために、今後も少しずつ増やしていってほしい。 ・安全管理に関しては今年度、とても進めてくださり、本当にありがたい。 今後は、登下校通路の安全確保（例えば各登校班の集合場所を集約化して、歩く場所を安全なところに限る、など）が必要になる。 ・着替えに関しても窓ガラスにシートを貼られたことはとてもありがたい。今後LGBTQを考えると個別スペース（パーティション設置）などの配慮が必要であるかと思った。	・安全、安心な教育環境を整えるため、遊具の整備、施設修繕について、今後も市へ要望を出していく。 ・渡り廊下など、死角となる場所に防犯カメラを設置してもらえるよう要望を出す。

【評価規準】　4：十分満足　3：おおむね満足　2：改善を要する部分がある　1：大いに改善を要する